

「第2回 熊野川の総合土砂管理専門部会」を開催しました。

～関係機関における課題の共有、検討状況の報告～

- 新宮川水系（熊野川）河川整備計画に基づく「持続可能な総合的な土砂管理の実現」に向けて、各管理者と学識者の意見交換を行う総合土砂管理専門部会を開催。
- ダム領域から、河川、海岸領域までの管理者間の課題を確認し、流域全体の生産が止まらない土砂に対して、河道での流下を基本に、環境上や治水上の課題解決や利益相反から最大の相乗効果を生む流域総合水管理の観点も含めた議論を実施。

<概要>

○日時：令和7年10月9日(木) 10:00～12:00

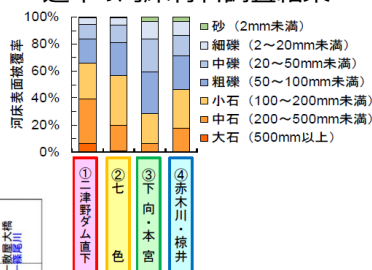
○出席者：三重県、和歌山県、奈良県※WEB、
関西電力株式会社、電源開発株式会社 西日本支店、
近畿地方整備局 河川部、紀南河川国道事務所
(学識者※五十音順)
角 哲也 京都大学防災研究所水資源環境研究センター特定教授
竹門 康弘 大阪公立大学国際基幹教育機構客員研究員
藤田 正治 京都大学名誉教授

<学識者からの意見>

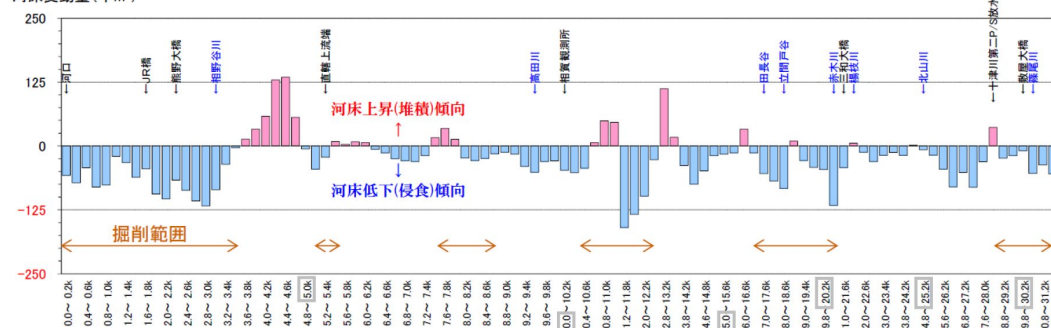
- ・総合土砂は各管理者が自分事化して考えるべき。今回の課題を元に今後の対策、連携を踏まえて、2次整理を進めるべき。
- ・各管理者の課題は土砂をどう運搬するか、解決策としては、河川で流下する方向しかないが、下流への影響など確認しながら進める必要がある。
- ・土砂流下は川の増殖義務（生態系の回復・保全）を果たす役割もあるため、土砂供給、環境改善という観点の整理について水産部局とも調整すべき。
- ・土砂流下における上下流のコストシェアリングについて、他県では県ダムと海岸部局が半分ずつ負担している事例がある。
- ・どこまで河床を上げてもいいのか、安全度をどこまで下げられるかの議論も必要。
- ・環境への影響を評価し、一般の方にわかりやすい絵などを用いて環境改善の意義を伝える資料を作成すべき。



近年の河床材料調査結果



河床変動量 (千m³)



平成23年出水後と令和6年度末の河床変動量



【問合せ先】 国土交通省 近畿地方整備局
河川部 河川計画課 計画第二係
TEL 06-6945-6355

